

## 生きることのキセキ

那覇市立天久小学校五年 知念 慶

自由に踊る子ども達の  
何気ない会話の中に出た

「死なすよ。」「死ね。」

ぼくも何度も聞いたことのある言葉を

命を軽くみたひどい言葉を

おばあさんはゆるさなかった

おばあさんは話した

八十一年前のことを

山原の川で

生き生きと遊ぶ日々があった

しかし戦争の足音が

沖縄にも近づいてくる

子どもは足手まといになる

「そかいした方がいい。」

先生も友だちもおばあちゃんもいとも

みんなで対馬丸にのった。

不安やさびしさをこらえて

「来年の春にはきっと会えるから」

母の言葉を信じて

「お国のために」

戦争のせいで

やりたいこともできない日々が続く

それでも友だちと

将来のことを語り合う子ども達

これから来る未来に期待する

「やくそくだよ」

それは未来があるからできること

戦争がおわったら

やってみたいことがある

希望を胸に語り合う

七百人以上の子ども達がのった船も

子ども達の未来も

米軍の魚雷こうげきにより

夜の深い海の底へと沈んでいった

家族や友人とはぐれ

黒く燃える海に投げだされた

「生きて帰る」

母との約束を思い出し

食料も水もない中で、命をつなぐ

生きるとは簡単ではなかった。

それでも必死に生き続けた

今、命があることはキセキだ

戦争の中でも

ばくげきにあって海に放り出されても

家族を失って一人ぼっちになっても

つらく、苦しい中でも

生きて命をつないでくれた人達がいたから

今ぼくはここにいます

何にもじゃまされず

未来への夢を抱くことができる

ぼくの家族の命も友だちの命も

どの命もひとつしかない大切なものだ

「ぬちどう宝」

この言葉の意味を

この言葉の重さを

ぼくは胸にきざんで生きていく

おばあさんは教えてくれた

命がとうといものだということを

「生きる」

それをだれかに

じゃまされるべきではないことを

生きていることはキセキで

生きていることは素晴らしい